

目撃！葉っぱの巻き物を作る虫、オトシブミ

地面の下や枝先で、くるくると巻かれた奇妙な葉を見たことはあるでしょうか。春～夏の時期、枝から切り落とされたり、真ん中あるいは片側を残して枝にぶら下がったりしている葉っぱの巻き物を目にします。これらはオトシブミと呼ばれるもので、種により様々な形があります。

5月中旬頃、天覧山ふもとのエゴノキに、片側に弓なり状に切れ込みが入った揺籃がいくつも吊り下がっていました。一枚の葉に、これを作った主であるエゴツルクビオトシブミを発見しました。いったいどのようにして揺籃を作るのでしょうか。

まず、枝についている葉の一枚を、つけ根を残して切り取っていきます。ふちに沿ってかみ傷をつけ葉を畳みやすいようにやわらかくしていきます。次は裏側の真ん中を葉脈に沿って歩き、足で挟みつけながら葉っぱを折り畳んでゆき、先端から葉を巻いていきます。この途中で卵を産みつけ、最後は解けないように裏返して完成です。ふ化した幼虫はその葉を食べて成長するのです。

根気よく足を使い、少しずつ葉の形を作る様は実に感嘆させられます。もしこの小さな製作者を見つけたら、驚かさないようにそっと見学させてもらいましょう。(本橋)

